

まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和元年 11 月 11 日（月）13 時 57 分～15 時 33 分

場 所：富士中央公民館

出席者：14 人

1. 開会
2. 町長挨拶
※配布資料確認および日程説明
3. 今年度のまちの動き（資料①）
※質疑応答
4. これからのまちづくり（資料②）
5. 懇談
6. その他
(1) 出前型政策・施策説明会「栗山町のまちづくり」について（資料③）
※質疑応答
7. 閉会

《質疑応答》

【運転免許証の自主返納について】

町民：

免許を自主返納した後、町営バスの利用をお願いしたいということだが、市街地しか回っていない。1 日 2 便くらい農村部にも回ってくれないだろうか。冬季間の運行だけでも考えてもらいたい。

建設総括：

高齢者を中心にアンケート調査を行った。その結果を踏まえて検討委員会を作り、令和 4 年に新しい運行体制をスタートする。

町長：

スクールバスや、町のイベントでの臨時運行を考えていきたい。

【栗山赤十字病院について】

町民：

限られた予算の中で、課題を進めていくのは大変だと思う。医療と福祉が町にとって一番重要だ。どこの市町村も同じような問題を抱えているだろう。大きな病気をしたときは札幌市などの病院へかかる。新聞でも統合が必要な病院として日赤病院が載っていた。近場に病院がなくなるのは困る。何とか存続してもらいたい。

町長：

広域で連携して総合的な病院を作ってはどうか、などの意見をいただいている。病床数を減らして規模を縮小させ、存続する方法もある。町の病院は維持していきたい。検

討委員会で今年度中に方向付けをしていきたい。

福祉総括：

9月下旬に道内で再編・統合等が必要な病院が一方的に公表された。一般病棟（急性期）が調査対象であり、南空知の病院が多く入っていた。公表された病院・自治体は困惑している。今後、耐震化の問題もあり早急に進めなければならないと思う。20年、30年先を見据えた考えも必要になるので、慎重に行動していかなければならない。

【新規就農者・ものづくり DIY 工房について】

町長：

これからの時代を担う、若い農業後継者が頑張っている。新規就農者も多く栗山町に入ってきている。地域おこし協力隊 25 人のうち 7 割が栗山に定着している。「若者の町くりやま」を合言葉に頑張っている。ものづくり DIY 工房の運営のため、2 人を採用し、鎌倉市へ研修に出し勉強をしている。

【シューパロダムについて】

町民：

大洪水でダムの放流などがニュースで報道された。富士地区は無堤防だが、どうなるのか。

総務課主幹：

貯水量は調整設備により、国や道から連絡が入り、サイレンなどで周知するといった対応をしている。

町長：

シューパロダムについても、想定された雨量が基準になってくる。想定外の雨量については、対応できない部分もある。いろいろなことを想定して国や道と連携したタイムラインを整備していかなければならない。

【栗山高等学校について】

教育次長：

栗山高校について、1 年生 33 人のうち 19 人が栗山中学校から来ている。86 人のうち、20%が栗山高校に進学した。理由の一つに少子化の影響がある。岩見沢市方面に 8 割が進学している。

中学校にアンケート調査を行ったところ、学力や部活動、学校の雰囲気について多く書かれていた。今後、学科なども含めた魅力づくり委員会を開いて検討していく。